平成２２年度　大東中学校区（大東小・大平小・大東中）　学校関係者評価書

４段階評価　「４」～期待以上　「３」～ほぼ期待どおり　「２」～やや期待を下回る　「１」～改善を要する

評価項目	評価指標	具体的目標		学校の自己評価結果コメント	自己評価 学校別	自己評価 総合	学校関係者評価	学校関係者評価コメント
知に関する内容	１「読み」「書き」「計算」「コミュニケーション能力」の到達目標を基に、基礎学力の向上を図る。	○「読み」「書き」「計算」「コミュニケーション能力」の到達目標７０％以上を達成する。	大東小	読書については、図書室の環境整備、読書ビンゴの取組、多読賞による表彰等により、成果を上げている。図書室での過ごし方や本の扱い方などのマナー面に問題が見られたため、指導を繰り返してきた。「くしまっこ読もうよ」は達成状況を確認しながら、啓発に努めてきた。 各学級においてスピーチを行う場を設定し、日々実践している。	３	３	３	○　児童・生徒の読書意欲を高める工夫がなされ、徐々に成果があげられたのは素晴らしい。 ○　著者の主張・要点が読みとれる読書が望ましい。 ○　最低１冊でも読書する習慣の育成がほしい。 ○　読書環境の整備充実と読書マナーの更なる育成を望む。 ○　投稿活動は素晴らしい。継続と質の向上を望む。 ○　スピーチ活動は今後も継続し、機会を増やしてほしい。
			大平小	「くしまっ子　読もうよ」については、一人平均８冊、平均以上読んでいる子は５人、０冊が３人という状態で、読書全体を見ても、読む子と読まない子の差が大きい。	２			
			大東中	・　チャレンジテストなどのＳＳＢの時間の　補充学習などが実施できた。さらなる効率化を求め、実施方法など改善を計画し　ている。 ・　「串間っ子読もうよ１００冊」の取組として、図書コーナーを設置したり、読書会、図書便りで本の紹介を実施できた。 ・　第１学年でスピーチ活動に取り組んでいる。また、社会科では、新聞記事を用いた取組を始めた。また、宮日「若い目」への投稿を継続している。 ・　英語表現科では、２学期にスピーチ活動を実施し、一人一人がクラス全員の前で楽しく発表できた。	３			
		○基礎学力の定着を図るために、家庭学習の充実に努めさせ、各学年ごとに必要な家庭学習の時間を８０％以上の子どもが達成する。 【宅習時間】 □大東・大平小 学年×15分 □大東中 学年＋１時間	大東小	「くすの木っこ」は、保護者と連携しながら改良を加え、活用している。また、夏季休業中には「夏休みのがんばりカード」も作成し、活用した。さらに、「忘れ物チェックカード」に取り組み、成果を上げることができた。	３	２	２	○　学校とＰＴＡの連携した取組により成果が出ている。 ○　学習に対する意欲と積極的な取組の習慣化をどう身につけさせるか今後の課題である。 ○　宅習時間２時間は、復習５教科×１５分＝７５分、予習５教科×１０分＝５０分という考え方もあるのではないか。
			大平小	保護者のサインは、高学年になるにつれ、徹底できていない。（平均７１％） 家庭学習時間については、８４％の児童が達成できている。	２			
			大東中	・　１・２年生は宅習ノートの実施時間の記入ができるようになり、教科別学習時間を調べ、個別指導に生かせた。 ・　夏休みの課題について、提出状況を把握し、個別に指導したが、完遂できなかった生徒がいた。 ・　学習時間については、大きな目標を掲げているが、定期テスト期間中では、ＰＴＡファミリーノートの取組もあり、徐々に学習時間もアップしている。また、継続した取組で、家庭学習に対する意識も徐々に高くなってきた。	２			
	２基礎的・基本的な内容の確実な定着と、自ら学び自ら考える力を育成するために「わかる・楽しい授業」を目指す。	○今日の授業はわかったと評価する子どもが８０％以上を達成するために、「わかる・楽しい授業」の構築を目ざし、全職員が１回以上の研究（検証）授業を実施したり、積極的に自己研修を行ったりしながら、授業力の向上に努める。	大東小	一人一研究授業は、授業者がそれぞれの仮説を立て、研究授業を進めてきた。教師が互いに研鑽するなかで、質の高い授業が構築され、児童の学力向上につながっていった。 懇談会や学級通信等で家庭との連携を深めている。	３	３	３	○　各学校のそれぞれの取組は素晴らしい。 ○　生徒による授業評価の効果的な活用を望む。 ○　次年度より実施される外国語活動の準備等が大変であろうと気になる。
			大平小	個人の研修課題を設定し、取り組み、９月の中間反省を行った。２回目の授業アンケートを実施し、これからの授業力向上に役立てていく。	３			
			大東中	・　全職員が研究授業もしくは研究論文作成に取り組むことができた。 ・　職員研修において、授業改善の３つの努力事項を設定し、取り組んだ。 ・　生徒による授業評価を実施し、「認められていると感じている生徒」などが増加し授業改善の効果が見られた。	３			

平成２２年度　大東中学校区（大東小・大平小・大東中）　学校関係者評価書

４段階評価　「４」～期待以上　「３」～ほぼ期待どおり　「２」～やや期待を下回る　「１」～改善を要する

評価項目	評価指標	具体的目標		学校の自己評価結果コメント	自己評価 学校別	自己評価 総合	学校関係者評価	学校関係者評価コメント
徳に関する内容	１基本的な生活習慣や社会的マナー・エチケットを身に付けた子どもの育成を図る。	○誰にでも明るく元気のよいあいさつができる子どもの割合が９５％以上を目指す。 ○返事ができる子どもの割合が７０％以上を目指す。	大東小	１２月をあいさつの強化月間とし、毎日あいさつの自己評価を行う取組をした。子ども達の意識も高まり、校内では今まで以上に気持ちの良いあいさつの声が聞かれるようになった。今後は、校外でのあいさつがよくなるように取り組んでいきたい。	3	2	2	○　学校でのあいさつ指導は効果があがっている。今後も継続してほしい。 ○　基本的生活習慣は家庭教育で育成するものである。家庭教育の違いで「できる」「できない」が出てくると思う。 ○　小学生はよくあいさつができる。中学生は自分からできる生徒は多くない。
			大平小	場面に応じた細かい指導をしてきた。昨年より、あいさつ・返事がよくなっているが、（生活ふり返りアンケート　９２％）目標にはまだ少し達してない。	2			
			大東中	生徒会により、反応を良くする活動には取り組んでいる。また、登校指導等を通して、あいさつのできる生徒の育成に努めている所である。また、口蹄疫の関係で参観日等が実施できず、家庭との連携が不十分な所もあったが、夏季休業中に二者面談、三者面談等で連携を図った。あいさつは概ね良好。返事については繰り返し指導により定着を図っている所である。	2			
		○相手に対し思いやりのある言葉遣いができる子どもの割合が８０％以上を目指す。	大東小	思いやりコーナーを設置したが、はじめは意欲的に取り組むことができ、言葉遣いなども丁寧を意識する児童が多くなったが、時間がたつにつれて、掲示する児童、見る児童も少なくなり、意識も薄れた。	2	2	2	○　学校の工夫された取組を評価したい。 ○　継続して取り組むことで成果が徐々に出てくると思う。
			大平小	全体の場や学級での指導により、正しい友だちの呼び方をする児童が増えた。（生活ふり返りアンケート　９２％）	3			
			大東中	「オアシス運動週間」の設定により、特に生徒間のあいさつの意識が高まってきたと感じる。アサーションについての授業を行い意識を高めた。今後の継続した指導が必要である。	2			
	２自ら考え、進んで行動し、何事にも積極的に取り組む子どもの育成を図る。	○学校行事等に主体的に活動するとともに、委員会活動や係活動に積極的に取り組める子どもの割合が７０％以上を目指す。	大東小	各担任の言葉かけや中間アンケートにより、子どもたちの意識が高まり、責任をもち、主体的に取り組めるようになった児童が増えた。定期的なアンケートで、意識を継続することができた。	3	3	3	○　徐々に成果が出てきていることで今後に期待したい。 ○　児童・生徒の活発な活動の様子はよく見てとれる。
			大平小	１学期より、学級の係や学校の行事のために、進んで意見を出したり、活動したりする児童が増えてきた。（自己評価アンケートより）	3			
			大東中	各委員会の活動目標に対して、各学級から修正意見を出すなど、自分達の事として捉え、主体的に活動するようになった。 また、校内宿泊という形でリーダー研修会を実施するなどして、リーダーの育成に努めている。	3			

平成２２年度　大東中学校区（大東小・大平小・大東中）　学校関係者評価書

４段階評価　「４」～期待以上　「３」～ほぼ期待どおり　「２」～やや期待を下回る　「１」～改善を要する

評価項目	評価指標	具体的目標		学校の自己評価結果コメント	自己評価 学校別	自己評価 総合	学校関係者評価	学校関係者評価コメント
体に関する内容	１体力向上プランに基づき、年間を通して主体的に体力を向上させようとする態度の育成を図る。	○体力テストの結果を基に、「体力テスト目標設定システム」を活用し、目標を達成する割合70％以上を目指す。	大東小	個人カルテについては、冬季休業中に作成をしていく。今年度は、ダンス「Ｍｋｉｄ’ｓエクササイズ」を取り入れ、楽しく踊りながら体力を高めることができた。その他、職体研などで、職員の体育授業力の向上を図っていきたい。	2	3	3	○　体力は人間のあらゆる活動の源である。 ○　体力テスト・運動会・マラソン大会等の個人記録の活用方法を考えたい。 ○　登下校の徒歩の徹底など体力向上のための取組を今後も継続してほしい。 ○　よく食べ、よく動き、よく眠る健康３原則の基本的生活習慣の育成が望まれる。
			大平小	５月の体力テストの後、授業や各体育的行事を通して、体力の向上を図った。１２月に実施した２回目の体力テストでシャトルランとソフトボール投げを除く６種目を行い、児童の変容を見たところ、ほとんどの児童が６種目中３、４種目以上で記録の伸びが見られた。また、その伸びている分の半分程度が個人の到達目標を達成しており、一応の成果が見られている。来年度の５月に向けてチャレンジ目標（＋３）のレベルを意識づけて取り組ませたい。	3			
			大東中	・　設定目標に対する達成率は65.23％で昨年とほぼ変わらないという結果であった。成績上位者が増えたが、成績上位者にとっては目標達成が困難な傾向が見られた。しかし、意識の点では高揚している。	3			
			三校	中学校の運動場に新たな出入り口ができ、新たなコースでの第３回目の開催あった。エントリー制であるため、他学年・中学生との競争場面が多く見られ、児童・生徒の意欲が大変高まった。個人の記録も蓄積してあり、次年度の目標値を設定する手立てにもなり、大変有効である。				
	２給食時の食育指導を通して、好き嫌いのない食生活を送れるようにする。	○「食べ残し０」週間を設け、期間中の残滓０の日の割合が７０％を目指す。	大東小	全体的に残食が少なくなってきている。今後、給食委員会を中心に「食べ残し０」を全校に呼びかけ、意識化を図っていきたい。	3	3	4	○　朝食調査・個にあった給食指導等各校の指導は充実している。 ○　残滓０は素晴らしい成果である。
			大平小	朝食を食べている時、食材の栄養について、説明し、残さず食べて元気な身体づくりを呼びかけた。食べ残しはなく、ほぼ完食である。	3			
			大東中	・　「食べ残し０」週間を設定して取り組んだところ．ほぼ残滓「０」の状態である。 ・　給食便り､保健便りで定期的に啓発できている。	4			
家庭や地域との連携に関する内容	１家庭や地域と連携して、「早寝・早起き・朝ご飯」等の運動を通して、子ども達の健全育成に努める。	○「朝ご飯」を食べて登校する子どもの割合が100％を目指し、かつ「栄養バランスのとれた朝ご飯摂取」の意識啓発に努める。	大東小	朝ご飯は、概ね全児童が摂取できている。今後は、バランスのとれた朝ご飯の内容面についても啓発を図っていきたい。	3	3	3	○　夏休み期間中だけでもラジオ体操、朝の清掃活動等ボランティア活動はできないか、少子化により子ども会活動は困難ではあるが・・・ ○　児童・生徒・保護者の意識が高まったことは評価したい。
			大平小	オープンスクール（給食試食会）で、保護者や地域の方々に「朝食レシピ」を配付した。資料配付の回数を増やして内容も充実したものにしていきたい。	2			
			大東中	朝食の摂食状況調査を9月に実施して朝食の大切さを啓発すると共に結果を便り等で伝えた。栄養教諭との連携により３校合同学校保健委員会で朝食・栄養バランスの大切さについて講話を実施した。	3			
		○保・小・中の連携を図るための大東地区子育て推進委員会を母体に、校種間の連携を図ったさまざまな活動の醸成に努める。	三校	・「口蹄疫」の関係で、各種行事が延期または中止を余儀なくされてきたため、現段階ではまだ、実施できていない。 今後、１月または２月に実施の方向である。			4	○　小中合同運動会、マラソン大会等交流活動は相互理解と指導の連携を深め、大きな成果を得ている。
その他の内容	１自力登下校を通して、精神的にたくましく、健康な体作りを行う子どもの育成を目指す。	○自力登下校を行う子どもの割合が100％を目指す。	大東小	全児童が「１㎞ウォーク」に取り組むことはなかなか難しかった。児童及び保護者に「早寝・早起き・１㎞ウォーク」を合い言葉にしっっかりと歩いて登下校できるように啓発を図っていきたい。	1	2	3	○　「１㎞ウォーク」は児童・保護者の意識づけになっている。 ○　保護者への意識づけを図り、徒歩登校者の増加を望みたい。
			大東中	専門委員会の活動の一つとして取り組んでおり、生徒の意識はかなり向上してきた。	3			

平成２３年度　大東中学校区（大東小・大平小・大東中）　学校関係者評価書

４段階評価　「４」～期待以上　「３」～ほぼ期待どおり　「２」～やや期待を下回る　「１」～改善を要する

評価項目	評価指標	具体的目標		学校の自己評価コメント	自己評価 学校別	自己評価 総合	学校関係者評価委員 評価	学校関係者評価委員 コメント
知に関する内容	１「読み」「書き」「計算」「コミュニケーション能力」の到達目標を基に、基礎学力の向上を図る。	○「読み」「書き」「計算」「コミュニケーション能力」の到達目標７０％以上を達成する。	大東小	２学期に作成した進級テストを３学期から実施し始めた。今後はその成果や課題を見ながら改善を図っていく。 読書貯金通帳で、下学年児童の読書意欲は高まった。上学年へ向けての読書啓発の取組を工夫する必要がある。 各学年の実態に応じたスピーチが行われ、話す・書く力が少しずつ身についてきた。	3	3	3	・大東小・大平小の取組みは、読書意欲を高めるための工夫が見られよかった。 ・読後の内容概要・感想等の発表の場の設定も必要ではないか。 ・１分間スピーチは継続してほしい。 ・ＮＩＥ学習推進は大きな効果が見られる。継続してほしい。 ・「若い目」等の作品掲載は地域でも関心をもっている。継続してほしい。
			大平小	図書委員会の毎月の表彰により読書に対する意識も高まり、低･中学年を中心に意欲的に読書に取り組むようになった。高学年への意欲の手立てとして、新本の購入にあたって児童の希望を聞いた。 Ｗｅｂ学習単元評価テストを繰り返し活用することで難問に対する答え方などへの理解が深まりつつある。	3			
			大東中	ＳＳＢの時間（個別指導）の取組の工夫が軌道に乗り始めた。年間計画、内容等の充実が必要である。 「読書郵便」「読み聞かせ活動」なども実施できた。 １分間スピーチ活動は、２、３学年を中心に実施できた。２学年では、ＮＩＥの推進を含め、新聞記事を使ったスピーチ活動を実施している。発表する機会の設定や能力の育成を図る指導・工夫の研修を深めていきたい。	2			
		○基礎学力の定着を図るために、家庭学習の充実に努めさせ、各学年ごとに必要な家庭学習の時間を８０％以上の子どもが達成する。 【宅習時間】 □大東・大平小 学年×15 分 □大東中 ２時間以上 （※テスト前） 学年＋１時間	大東小	家庭学習への取組について、各学年の発達段階において指導し、80 ％以上の子が達成している。 くすのきっこは家庭により取組の差が大きいが、基本的生活習慣確立のための一助となっている。	4	3	3	・家庭学習への取組みは各校とも工夫がなされ、効果が上がっていることを評価する。 ・中学校は宅習時間設定とともに宅習内容の指導が更に大切であると思われる。 ・宅習は学力向上とともに児童生徒の弱い心を克服する有効な手段である。さらに工夫されることを望む。
			大平小	保護者のサインについては、毎日１～２名の未記入があるもののほぼ達成できている。しかし、内容の見届け、やり直し等の声かけまで見ると学　年があがるにつれて難しいようである。 学習の仕方については、学習の手引きを使って機会あるごとに保護者に話をしている。特に指導が必要な場合は、資料を用意して理解を深めている。2 学期末の個人面談では、児童一人一人にあった学習方法を保護者と話し合うことができた。	3			
			大東中	宅習（漢字）ノートの実践は、内容の指導をはじめ、未提出者の個別指導に努めた結果、提出状況も改善された。 定期テスト前は、ファミリタイムノートを実施し、宅習時間の調査・把握に努め、学級活動での全体指導や個別指導に役立たせることができた。 冬季休業では、課題量の調整、生徒への声かけ、目標設定など強い指導もあり、提出状況も良くなった。	2			
	２基礎的・基本的な内容の確実な定着と、自ら学び自ら考える力を育成するために「わかる・楽しい授業」を目指す。	○今日の授業はわかったと評価する子どもが８０％以上を達成するために､「わかる・楽しい授業」の構築を目ざし、全職員が１回以上の研究（検証）授業を実施したり、積極的に自己研修を行ったりしながら、授業力の向上に努める。	大東小	全員が研究授業、または、論文に取り組んだことで授業力の向上につながった。 今後も通信等により保護者との連携をとり児童の学習充実を目指す。	3	3	3	・全員が研究授業や教育論文に取り組み、効果を上げていることを高く評価したい。 ・学習過程において自ら考え・判断し・表現することのできる学習活動を更に工夫・充実してほしい
			大平小	個人カルテによって明らかになった児童一人一人の｢困り感｣を把握し、教材づくりや授業中での指導に生かせるようになりつつある。しかし、その場その場での記録が容易な形の個人カルテへ改善していく必要がある。	3			
			大東中	学期１回（３回）の研究授業を行い、研修を深めた。３学期は、｢考える時間の設定｣｢発表の機会の設定｣の指導過程の工夫を中心に取り組んでいる。また、研究論文も作成・提出できた。 また、２学期末に授業評価を行い、授業改善に努めた。	3			

平成２３年度　大東中学校区（大東小・大平小・大東中）　学校関係者評価書

４段階評価　　「４」～期待以上　「３」～ほぼ期待どおり　「２」～やや期待を下回る　「１」～改善を要する

評価項目	評価指標	具体的目標		学校の自己評価コメント	自己評価 学校別	自己評価 総合	学校関係者評価委員 評価	学校関係者評価委員 コメント
徳に関する内容	１基本的な生活習慣や社会的マナー・エチケットを身に付けた子どもの育成を図る。	○誰にでも明るく元気のよいあいさつができる子どもの割合が８５％以上を目指す。 ○返事ができる子どもの割合が８５％以上を目指す。	大東小	意識調査の結果が９０％をこえ、期待以上の成果が見られた。しかし、校外や家庭での取り組みについては指導をしていく必要を感じる。	3	2	3	・小中学校ともにあいさつは良い。 ・家庭・地域ともに肯定的評価が高くなっていることは高く評価する。 ・まず家庭内のあいさつ励行の指導が必要ではないか。 ・学校・家庭・地域が連携し、全体であいさつをする運動の展開が必要ではないか。
			大平小	児童へのアンケートでは「あいさつ」が 85 ％できているが、親や地域の方へのあいさつが学校より 15 ％低い。「返事」は、高学年の自己評価が 30 ％弱だった。行事等、全員で取り組む時だけでなく、個人の日常の行動についても厳しく評価していると思われる。全校集会等での指導を強化したい。	2			
			大東中	生徒会主催で数回､あいさつ運動を実施した。PTA 登校指導で、あいさつをしないわけではないが、声が小さい。	2			
		○相手に対し思いやりのある言葉遣いができる子どもの割合が８０％以上を目指す。	大東小	意識調査の結果は、８０％であった。目標数値はこえているが、場面によって荒い言葉遣いをしているようだ。指導に工夫が必要である。	3	2	2	・意識調査の結果を分析し一人ひとりの意識を高める工夫がなされていることを評価したい。 ・思いやりのある言葉遣いは、優しい心・思いやりのある心の育生によってできると思う。心の養成も大きな課題である。
			大平小	児童へのアンケートでは「友だちへの君、さん付け」は 46 ％しかできていない。低･中学年では 100　％だが、高学年が殆どできなかったようだ。児童一人一人の意識を高める工夫が必要である。今後は児童へのアンケートを定期的に実施し、フィードバックしながら意識化を図っていきたい。	1			
			大東中	意識調査から各学級で改善する項目を決め、取り組ませた。その後のアンケートでは、どの学年も評価が上がった。	2			
	２自ら考え、進んで行動し、何事にも積極的に取り組む子どもの育成を図る。	○学校行事等に主体的に活動するとともに、委員会活動や係活動に積極的に取り組める子どもの割合が８０％以上を目指す。	大東小	意識調査の結果は高い数値を示している。さらに活躍の場面を意識的に設定していくことで多くの児童が進んで取り組んでいけるのではないかと考える。	4	3	3	・意欲的に活動させるために、成就感・満足感を味わうことのできる指導・支援が大切である。 ・積極的に活動しているように見える。
			大平小	これまでの活動で見届けや声かけを意識して行ってきたが、今後も個別指導を意識しながら継続していきたい。	3			
			大東中	生徒会便りや生徒集会で、生徒自らが、工夫した活動をする場面が多く見られるようになった。	3			

平成２３年度　大東中学校区（大東小・大平小・大東中）　学校関係者評価書

４段階評価　「４」～期待以上　「３」～ほぼ期待どおり　「２」～やや期待を下回る　「１」～改善を要する

評価項目	評価指標	具体的目標	学校の自己評価コメント		自己評価 学校別	自己評価 総合	学校関係者評価委員 評価	学校関係者評価委員 コメント
体に関する内容	１体力向上プランに基づき、年間を通して主体的に体力を向上させようとする態度の育成を図る。	○体力テストの結果を基に､｢体力テスト目標設定システム」を活用し、目標を達成する割合70 ％以上を目指す。	大東小	個人カルテは作成してあり、次年度への手立てともなり、有効である。 体力テストの分析から落ち込みの見られるところを重点的に体育の時間や日常の中での体力向上の意識を高めていきたい。	3	3	3	・各校とも工夫した取組みがなされている。
			大平小	走を中心に体力向上が図られている。外遊びに積極的に関わらせながら、一層の向上を目指していく。	3			・分析結果をもとに、授業や日常生活の中に継続して取り入れていることを高く評価する。
			大東中	長距離走の授業を通して、走ることへの意識が高まり、自主的（授業以外）に走る生徒が増えた。特に運動を苦手と生徒する生徒の意識が高くなった。 落ち込んでいる体力である筋力を高める取組として、授業の始めに、腹筋と背筋のトレーニングを行った。 成果については、４月に行われる体力テストで明らかになる。 運動の必要性を理解させる授業や運動をを好きになる生徒を増やす授業を展開し、生活の中に、運動を取り入れていく生徒を育てていくことが重要である。	3			・徒歩による登下校は体力向上に大きくつながる。
			三校	本年度はメイン会場を多目的運動公園にした。昨年度同様、エントリー制を基本としたため自分の記録への挑戦意識が高まった。コースはさらに工夫していきたい。 体力テストの結果を自分の課題として意識させる場面を増やしていきたい。				・小中合同はそれぞれが立場を理解し、連携がよくとれ、自発的・主体的な活動が見られ、素晴らしかった。
	２給食時の食育指導を通して、好き嫌いのない食生活を送れるようにする。	○｢食べ残し０」週間を設け、期間中の残菜０の日の割合が７０％を目指す。	大東小	残食の多い学年と残食０の学年の差が大きい。「給食もりもり週間」を設定したことで、食べ残し０への意識が高まった。	4	4	4	・各校とも工夫した取組みで「残食０」の効果が見られたことを高く評価する。
			大平小	講師に北方中学校の栄養教諭を迎えて３校合同学校保健委員会を開催した。「弁当づくりとバランスのとれた食生活」について分かりやすく指導していただき理解を深めることができた。残菜は０である。	3			
			大東中	毎月の給食指導徹底週間に併せて、食べ残し「０」週間を設け、食べ残しチェックを実施した。ほぼ残滓「０」の状態である。	4			
家庭や地域との連携に関する内容	１家庭や地域と連携して、「早寝・早起き・朝ご飯」「弁当の日」等の運動を通して、子ども達の健全育成に努める。	○「朝ご飯」を食べて登校する子どもの割合が100 ％を目指し、かつ「栄養バランスのとれた朝ご飯摂取」の意識啓発に努める。 ○「弁当の日」を設定し、100 ％の児童・生徒が弁当の日に取り組む。	大東小	朝ご飯はほぼ全児童が摂取できているが、バランス面でかたよりがみられる。朝ご飯の内容についての啓発も図っていく必要がある。弁当の日については、給食おにぎりや遠足での「弁当の日」を実施することができた。次年度は行事弁当以外の「弁当の日」も検討していく。	3	3	3	・各校とも朝食摂取に力を入れていることは大変良い。 ・「弁当の日」は食を身近に感じ、健康な体づくりへの意欲と感謝の心を育てるためによい取組みであると思う。 ・保健だよりで食の基本的な指導がなされ、充実していることは素晴らしいと思う。
			大平小	参観日（全校懇談）や「保健だより」を通して保護者に対して「弁当の日」の啓発を図った。さらに、「弁当作り５つのチャレンジコース」の説明をするなどして、意欲の向上を図った。10 月１日には、一斉に「弁当の日」を実施し、学年によっては秋の遠足でも弁当づくりにチャレンジした児童もおり、意識･意欲の向上が図られつつある。	3			
			大東中	９月､朝食摂取状況調査を実施するとともに、学級活動で栄養教諭による学習を実施し、朝食の大切さを啓発した。また、11 月には弁当の日と関連した内容で学校保健委員会を開催した。ほとんどの生徒が朝食を摂取している。また３回の弁当作りにも取り組む姿勢が見られた。	3			
		○保・小・中の連携を図るための大東地区子育て推進委員会を母体に、校種間の連携を図ったさまざまな活動の醸成に努める。	三校	本年度は３学期に大平小学校で開催した。 小学生や中学生との交流活動を保育園児は楽しみにしている。保育園で諸活動の指導をしているので１年生段階ではそれをふまえた指導をしてほしい。鉛筆や箸の使い方を保育園でもっと指導してほしい。中学校は全員部活入部の方針である。等の意見が出された。 情報交換としての貴重な場であるので、今後は年２回の開催を計画していきたい。		3	4	・お互いに情報を共有し理解を深め、発達段階に応じた指導ができることは素晴らしい取組みである。継続してほしい。
その他の内容	１自力登下校を通して、精神的にたくましく、健康な体作りを行う子どもの育成を目指す。	○自力登下校を行う子どもの割合が 100 ％を目指す。	大東小	１学期の集団登校の試行を受けて、２学期から本格実施に取り組んでいるが、なかなか歩いて登校ができていない。	2	3	3	・集団登校の意義は大きい ・各地区の集団登校・自立登校の様子を把握し、地域や関係者との連携を図る工夫をしてほしい。
			大東中	生徒集会において、自立登校を呼びかけ、委員会による自立登校チェック、学年通信での啓発を行ったことにより、親に頼らずに登校する生徒が増えてきた。	3			

平成２４年度　大束中学校区（大束小・大平小・大束中）　学校関係者評価書

４段階評価　「４」～期待以上　「３」～ほぼ期待どおり　「２」～やや期待を下回る　「１」～改善を要する

評価項目	評価指標	具体的目標		学校の自己評価コメント	自己評価 学校別	自己評価 総合	学校関係者評価委員 評価	学校関係者評価委員 コメント
知に関する内容	１「読み」「書き」「計算」「話すこと」の到達目標を基に、基礎学力の向上を図る。	○「読み」「書き」「計算」「話すこと」の到達目標７０％以上を達成する。	大束小	話すことに関する力が高まってきているが、進んで話すことに関する意識が低い。	3	3	3	○　児童・生徒の読書意欲を高める工夫がなされ、徐々に成果があげられたのは素晴らしい。 ○　著者の主張・要点が読みとれる読書が望ましい。 ○　最低１冊でも読書する習慣の育成がほしい。 ○　読書環境の整備充実と読書マナーの更なる育成を望む。 ○　投稿活動は素晴らしい。継続と質の向上を望む。 ○　スピーチ活動は今後も継続し、機会を増やしてほしい。
			大平小	読書目標の設定が意欲の向上につながったが、家庭での読書には個人差が見られた。業間の学習は､基礎・基本の定着に有効であったが、計算進級テストへの取組はもう少しである。	3			
			大束中	数学ではＷｅｂ学習単元評価テストを採り入れるなど、ＳＳＢの時間の実践を通して、基礎・基本の定着を図ることができた。 １分間スピーチは、全学年で取り組み、人前での発表の機会を増やし、態度的に成果も見られてきた。英語表現科では、表情豊かに発表できる生徒も増えており、継続した取組が必要である。さらに、読み方や表情をつけての指導など課題も見えてきた。	2			
		○各学年ごとに必要な家庭学習の時間を８０％以上の子どもが達成する。 【家庭学習時間】 □大束・大平小 学年×15 分 □大束中 ２時間以上 （※テスト前） 学年＋１時間	大束小	全体的に家庭学習に取り組んでいるが、個別指導の充実をさらに図っていく必要がある。	3	3	3	○　学校とＰＴＡの連携した取組により成果が出ている。 ○　学習に対する意欲と積極的な取組の習慣化をどう身につけさせるか今後の課題である。 ○　宅習時間２時間は、復習５教科×１５分＝７５分、予習５教科×１０分＝５０分という考え方もあるのではないか。
			大平小	高学年は、学年×１５分の学習は難しいが、全児童に家庭学習の習慣化が図られている。 また、生活振り返りカードの評価が、低くなっている家庭もあったが、児童の実態をしっかりと捉え、厳しく評価しているからだと考えられる。	3			
			大束中	毎日の家庭学習２時間以上の達成は、厳しい状況である。「自学」の意識が薄く、課題の与え方、各教科の学習の仕方などの工夫が必要である。	2.5			
	２基礎的・基本的な内容の確実な定着と、自ら学び自ら考える力を育成するために「わかる・楽しい授業」を目指す。	○今日の授業はわかったと評価する子どもが８０％以上を達成する。	大束小	児童の授業に対する満足度が高い。しかし、思考力・表現力を高めるための指導法を工夫していく必要がある。	3	3	3	○　各学校のそれぞれの取組は素晴らしい。 ○　生徒による授業評価の効果的な活用を望む。 ○　次年度より実施される外国語活動の準備等が大変であろうと気になる。
			大平小	個人カルテの作成はできなかったが、言語活動の充実を図り、表現力に関する自己評価を定期的に行い、実態把握と授業改善に努めた。	3			
			大束中	３回の研究授業を行い、「言語活動の充実」や「活用する力の向上」の研修を深めた。 ３学期に授業評価を行い、来年度に向けて、校内研究の推進、授業の改善等に努めていきたい。	2			

平成２４年度　大東中学校区（大東小・大平小・大東中）　学校関係者評価書

４段階評価　「４」～期待以上　「３」～ほぼ期待どおり　「２」～やや期待を下回る　「１」～改善を要する

評価項目	評価指標	具体的目標		学校の自己評価コメント	自己評価 学校別	自己評価 総合	学校関係者評価委員 評価	学校関係者評価委員 コメント
徳に関する内容	１基本的な生活習慣や社会的マナー・エチケットを身に付けた子どもの育成を図る。	○誰にでも明るく元気のよいあいさつができる子どもの割合が８５％以上を目指す。 ○返事ができる子どもの割合が８５％以上を目指す。	大東小	意識調査の結果が 90 ％を越え、期待通りの成果が見られた。しかし、校外や家庭での取組については、引き続き指導が必要である。	3	3	3	○　学校でのあいさつ指導は効果があがっている。今後も継続してほしい。 ○　基本的生活習慣は家庭教育で育成するものである。家庭教育の違いで「できる」「できない」が出てくると思う。 ○　小学生はよくあいさつができる。中学生は自分からできる生徒は多くない。
			大平小	学校での元気なあいさつや返事は良くなってきているが、保護者の評価は以前より厳しいところがあった。保護者の意識の高まりが影響していると思われる。	3			
			大東中	生徒会で計画的を立てて実施できた。日常生活では、習慣化されていないところもある。PTA のあいさつ運動は学期に１回実施できた。	3			
		○相手に対し思いやりのある言葉遣いができる子どもの割合が８０％以上を目指す。	大東小	意識調査の結果は 62 ％とやや期待を下回る。呼び捨てや激しい言動が見られることもあり、指導に工夫が必要である。	2	3	3	○　学校の工夫された取組を評価したい。 ○　継続して取り組むことで成果が徐々に出てくると思う。
			大平小	学校での「３つの約束」を守り、ソーシャルスキルを取り入れた活動を月一回続けることにより、正しい言葉遣いに気をつけ仲良くすごしている。但し、保護者の家での言葉遣い（君さんづけ）の評価は下がった。	3			
			大東中	人権週間の充実が図られた。授業や標語・作文・ポスターの作成等に取り組み、意識を高めることができた。	3			
	２自ら考え、進んで行動し、何事にも積極的に取り組む子どもの育成を図る。	○学校行事等に主体的に活動するとともに、委員会活動や係活動に積極的に取り組める子どもの割合が８５％以上を目指す。	大東小	縦割りでの行事等も多く、高学年のリーダー性が育ちつつある。下学年への指導や声かけ等、積極的に行ってくれる。ただ、委員会活動などにおける主体的な取組についてはもう少しのところである。	3	3	3	○　徐々に成果が出てきていることで今後に期待したい。 ○　児童・生徒の活発な活動の様子はよく見てとれる。
			大平小	運動会等の学校行事に児童が進んで取り組めるように助言を与え、場を保障して見守り励まし、意欲的に活動しようとする児童を増やすことができた。	3			
			大東中	自分の仕事に対して、責任感をもって誠実に取り組めるが、自ら考えて、行動するまでには至っていない。リーダー研修会は台風により延期したが実施できた。	2.5			

平成２４年度　大東中学校区（大東小・大平小・大東中）　学校関係者評価書

４段階評価　「４」～期待以上　「３」～ほぼ期待どおり　「２」～やや期待を下回る　「１」～改善を要する

評価項目	評価指標	具体的目標	学校の自己評価コメント		自己評価 学校別	自己評価 総合	学校関係者評価委員 評価	学校関係者評価委員 コメント
体に関する内容	１体力向上プランに基づき、年間を通して主体的に体力を向上させようとする態度の育成を図る。	○体力テストの判定結果において、標準以上の児童生徒の割合８０％以上を目指す。	大東小	体力テストの分析から、落ち込みが見られるところを重点的に、体育の時間や日常の中での体力向上意識を高めていきたい。個人記録表の改善も行う。	3	3	3	○　体力は人間のあらゆる活動の源である。 ○　体力テスト・運動会・マラソン大会の個人記録の活用方法を考えたい。 ○　登下校の徒歩の徹底等体力向上のための取組を今後も継続してほしい。 ○　よく食べ、よく動き、よく眠る健康３原則の基本的生活習慣の育成が望まれる。
			大平小	体力テストにおいてＢ判定以上の児童が８割、また全員が昨年度の判定結果を上回ることができた。 持久走の練習に取り組む姿勢からも運動意欲の向上が実感できた。	3			
			大東中	走力は意識も高く、自主的なトレーニングを行う生徒もおり、全体的に昨年を上回る結果となった。柔軟やストレッチを授業中に定期的に行い、怪我の防止に最善を尽くしたが、体力である腹筋・背筋などのトレーニングを定期的に実施することができなかったため、今後の課題となった。	3			
			三校	持久走大会に向けた３校の話し合いがなかったため、教師間の仕事内容・連携等の共通理解・確認が不十分であり、来年度の課題である。				
	２給食時の食育指導を通して、好き嫌いのない食生活を送ることができるようにする。	○「食べ残し０」週間を設け、期間中の残滓０の日の割合が８０％を目指す。	大東小	残食の多い学年と残食がない学年との差が大きい。また、個人差が大変大きい。自分の食べきれる量を知ることも大切である。	3	3	3	○　朝食調査・個にあった給食指導等各校の指導は充実している。 ○　残滓０は素晴らしい成果である。
			大平小	給食指導時に、その日に使われている食材の栄養面についてふれ、苦手な食材も食べるように指導した。殆どの日が「食べ残し０」である。	3			
			大東中	もりもりフェスタ（前半戦・後半戦）を実施し、残滓０になるよう意識づけを図った。配膳量などの調整など指導が必要な点も見られた。	2			
家庭や地域との連携に関する内容	１家庭や地域と連携して、「早寝・早起き・朝ご飯」「弁当の日」等の運動を通して、子ども達の健全育成に努める。	○「朝ご飯」を食べて登校する子どもの割合が100％を目指し、かつ「栄養バランスのとれた朝ご飯摂取」の意識啓発に努める。 ○「弁当の日」を設定し、100％の児童・生徒が弁当の日に取り組む。	大東小	学校栄養教諭を活用した授業を各学年で設定していく。 「弁当の日」を設定し、赤･緑・黄の食べ物を入れて作るよう意識付けを行った。また、食育だよりで保護者への啓発も行った。	3	3	3	○　夏休み期間中だけでもラジオ体操、朝の清掃活動等ボランティア活動はできないか、少子化により子ども会活動は困難ではあるが・　・・ ○　児童・生徒・保護者の意識が高まったことは評価したい。
			大平小	ほとんどの児童が、毎朝ご飯を食べて登校したが、栄養のバランスに関して保護者への啓発が不十分であった。また、給食時に栄養教諭の栄養指導を実施し食育の充実を図った。 弁当の日の取組は、全児童が進んで栄養バランスのとれた弁当づくりにチャレンジした。	3			
			大東中	定期的な調査は実施できなかったが、栄養教諭による学活の指導、リーダー研修会でのバランスのとれた朝食づくりなど、意識啓発に努めた。 弁当の日への取組は、自主的という面でははばらつきが見られた。	2			

その他の内容	１保・小・中の連携を図るための大東地区子育て推進委員会を母体に、校種間の連携を図ったさまざまな活動の醸成に努める。	○推進委員会の年２回実施を目指す。	三校	本年度は３学期に大東小学校で開催した。 小学生や中学生との交流活動を保育園児は楽しみにしている。保育園で諸活動の指導（鉛筆や箸の使い方など）をしているので、小学校１年生段階ではそれをふまえた指導を継続してやっていく。 情報交換としての貴重な場であるので、今後も継続して開催を計画していきたい。		3	3	○　小中合同運動会、マラソン大会等交流活動は相互理解と指導の連携を深め、大きな成果を得ている。
	２自力登下校を通して、精神的にたくましく、健康な体作りを行う子どもの育成を目指す。	○自力登下校を行う子どもの割合が100％を目指す。	大東小	昨年度と比べると、集団登校の状況はよくなってきているが、１ｋウォークを実践している児童は少ない状況であり、継続した指導や家庭への呼びかけが必要である。	2	3	3	○「１㎞ウォーク」は児童・保護者の意識づけになっている。 ○　保護者への意識づけを図り、徒歩登校者の増加を望みたい。
			大東中	ほとんどの生徒が自力登校ができている。全校集会や参観日で啓発を行った。委員会活動でも係の生徒が点検や呼びかけを行ってきた。	3			